徳島県環境影響評価審査会 平成30年度第4回 要録

(委員)

温室効果ガスの視点がない。保全目標を立てたりして積極的な抑制に努めてほしい。

(委員)

温室効果ガスを意見として入れるということについてはどうか。

(委員)

入れない方がよい。市民がどれだけゴミを削減できるかどうか。

(委員)

生活から出るゴミをできるだけ少なくするという市の市民に対する啓発をしながら、大規模な焼却施設が必要ということは矛盾する。

大きい施設を造ったらある程度ゴミがないと、施設を回すエネルギーがなくなる。

(事務局)

関係自治体の現在の施設規模の合計は1日あたり525t。今回の施設は396t。現在の合わせた施設のものよりは小さめに計画されている。将来的な排出量を決めて今回の規模を算出されたものと考えられる。

(委員)

環境影響という意味では、二酸化炭素は今一番重要なもの。世界で最も注目されている環境影響に対して配慮してくださいと言うことは必要。

(委員)

温暖化ガスについては、主として二酸化炭素が対象になっているが、徳島県の二酸化炭素の条例か計画で排出を抑制するように事業者等に要請をしている。

(委員)

例えば、ゴミ袋有料化等徳島市はしていない。それも含めてこういう目標を立てることがゴミの問題にアプローチになるのであればぜひ入れた方がよい。

(委員)

二酸化炭素について、大気環境に位置づけるのは少し難しい。

(委員)

大気環境の中には二酸化炭素濃度の基準がない。

(事務局)

条例上、大気環境の項目とは別に温室効果ガスの項目がある。

(委員)

可能な限りというのは、環境保全目標値を達成した上での話なのか、達成しなくても可能な限り抑制すればよいということか。

(委員)

目標値は、国の基準等全部示していた。それよりももうちょっと上乘せできないかという要望。

(委員)

生活排水について、この施設ができたときの職員等の生活排水。
地域の人の生活排水は勝浦川に排出しているのか。

(委員)

下水道は入ってないので、合併浄化槽か単独浄化槽。

(委員)

採石場だけでなく周辺も含めて調査をきちんとしてもらいたい。

(委員)

想定区域及び周辺における情報が乏しい。

(委員)

動植物は周りまで調べないと周辺地域の影響を回避・低減できる判断は立てられないのか。

(委員)

少なくとも楢円で囲まれた想定区域は調べないといけない。

(委員)

七釜の滝が近くにあるが。

(委員)

ここに入っていても見えない。一番上まで行けば予定地の所に出るが全く見えない。

(委員)

この七釜の滝の所をちょっと上がったら直接そこに出る。きれいな水が流れている。

(委員)

行ったことはないが、ホームページを見ると公園があつてきれいな所と書いてあつた。

(委員)

事業予定地の周辺に人が住んでいる。周辺に住んでいる人への配慮とか意見を聞いたり等が入っていない。

(委員)

確かに住んでいる人ということがあまり意識されていない。

(委員)

範囲を考えるとときに流域という考え方は入ってこないのか。

(委員)

流域ということになるとかなり広がってしまうので、どこまでそれを範囲を含めるかは難しい。普通、流域とは、1つの河川全部をいう。